

がん治療を受けながら 働く従業員の支援とは？



長期間の治療が必要と

Q

従業員が「がん」と診断され、



A

従業員や家族は、突然がんと宣告され、大変不安なことを思います。会社

の申し出がありました。会社としては働き続けてもらいたいのですが、どのように対応していくべきか教えてください。

がん治療しながら働く従業員への支援

としては治療期間中の業務内容や休日・勤務時間の変更などの検討が必要となります。かつては「不治の病」と言われたがんも、治療技術の進歩などにより5年相対生存率は向上し、長く付き合う病気と言われています。治療をしながら働き続けることは、収入の安定など労働者にとって望ましいことです。会社にとっても労働者の安心感やモチベーションの向上による人材の定着、生産性の向上などにつながります。さらに、一定の勤務上の措置や治療に対する配慮を行うことは、労働者の健康確保として位置付けられています。厚生労働省が公表している「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」では▽休暇・勤務制度などの職場環境の整備▽両立支援の進め方▽利用できる支援制度などが掲載されています。これらを参考に従業員や主治医とよく話し合っていくのが良いでしょう。鳥取労働局のホームページにはガイドラインのほか、企業や病気の治療中の労働者向けに、鳥取県内の相談窓口を紹介したリーフレットを掲載しています。

鳥取労働局労働基準部健康安全課 電話 0857-29-1704